

常任委員会の審査から

総務企画委員会

茨城空港の今後の見通しは

今をチャンスと捉え、時期を逸しないよう取り組む

問 茨城空港は、開港後約十年が経過し、その成果・コスト・今後の見通しなどを検証する必要があると考えるが。

答 北関東の訪日客数は上昇傾向にある。訪日客はこれまで行ったことがない地域を求め、リピーターが増えており、今をチャンスと捉え、時期を逸しないよう取り組む。台湾チャーター便は三月から週二便で七か月運航するが、経済波及効果を試算すると、三億円を超える。

問 新たに県北地域活力創造プロジェクト事業が始まるが、どのように進めるのか。また、将来的な考え方は。

答 人づくりや産業振興など市町が取り組むプロジェクトを支援する。実施に当たり官民などからなる協議会の設置や年次計画の作成、成果指標の設定を義務付けるなど着実な事業実施を促す。将来的には自走し、地域での継続的な取り組みとなるようにしたい。

問 職員の多様な働き方の導入として、平成三十年度から時差出勤などが大幅に拡充されることだが、県民サービスの低下を招かないための取り組みとは。

答 時差出勤については、最も早いものは七時始業、最も遅いもので十三時始業とし、一日単位で実施する。窓口開庁時間は変更しないため、県民サービスが低下しないよう、各所属に周知徹底を図る。

問 平成三十年度は組織が大幅に変わる。県庁の部課がどんな業務内容を担当するのか分かる資料は今後も継続して作成するのか。

答 存続させる方向である。職員に対しては、組織が変わってもきちんと引き継ぎを行い、新年度も円滑に業務を進めるよう通知している。(ほかに、私立高等学校等授業料減免事業の拡充、アンテナショップのリニューアルなども質問)



台北チャーター便歓迎セレモニーの様子

防災環境商工委員会

イノシシの被害対策への取り組みは

捕獲や生息分布調査を行う

問 イノシシの被害が多岐にわたっている。特に、行方地域で個体数が増加しているが、生活環境部の取り組みは。

答 有害鳥獣捕獲については、農林水産部が県内全域で実施している。生活環境部では、個体数管理のために、生息域の拡大などが見られる行方地域や高萩地域、筑波山で、県猟友会などによる捕獲や生息分布調査などを実施する。

問 消防団は災害時に重要な役割を担っている。新たな制度である「大規模災害団員」の導入に向けた取り組みは。

答 導入促進について、国の通知を受け、市町村に通知した。また、市町村向けの会議で制度の概要を説明した。今後は、消防協会における支部別総会や消防団長研修など、さまざまな機会を捉えて、市町村に導入を働き掛ける。

問 宿泊施設を誘致する新たな施策について、既存の宿泊施設の営業を圧迫しかねないのではないか。

答 富裕層など新しい客層を対象とした宿泊施設の誘致を想定している。地元ホテルと競合しないよう、誘致する宿泊施設の状況をよく確認しな

ら取り組む。また、宿泊施設を核とした地域振興策も併せて検討し、地域の活性化につなげていく。

問 戦略分野雇用創造促進事業は、正規雇用百四十人の目標に対し、実績見込みは七十六人であった。目標を達成できなかった原因と対策は。

答 実務研修期間中の時給を千円としたが、参加者からは安いとの声があった。また、事業期間を前期と後期に分けたが、半期では短かった。今後は、時給については、高過ぎない範囲で調整する。事業期間是一年間とする。加えて、求職者への広報を強化する。(ほかに、防災ブックの作成内容とPR、中小企業へのIoT導入促進なども質問)



箱わなを確認する狩猟者の様子(城里町提供)

保健福祉委員会

犬猫殺処分ゼロを目指した今後の取り組みは

中長期的な入り口対策に視点をのこした検討を進める

問 犬猫殺処分ゼロを目指す条例の制定を一つの追い風として、殺処分頭数は減少し、茨城県の本気度を全国に発信し県民の意識付けも進んだ。取り組みの成果と今後の課題は。

答 ボランティア団体などの協力を得た譲渡頭数の増加などにより、犬猫殺処分頭数は、前年同期と比較し大きく減少した。今後は、動物指導センターへの収容頭数を減らすため、あり方検討会で中長期的な入り口対策に視点をのこした検討を進めていく。

問 精神障害者への重度障害マル福適用は、他の障害区分に比べ対象となるハードルが高く、関係団体では置き去りにされたという思いを強く持っている。苦しんでいる方に光を当ててはならないか。

答 公平性の観点から課題があることを認識しており、実態把握に努め、対象者数や所要額などを研究し、助成の必要性を検討していく。

問 待機児童の九割を占める〇〜二歳児の解消には、保育人材の確保が必要である。そのためには保育ママの養成や

支援、保育士の処遇改善なども



殺処分ゼロを目指したさらなる取り組みを

答 病室や、執務室などのスペースも不足してきており、建て替えは喫緊の課題と認識している。これまでの経過も踏まえ、知事の下、一から在り方を検討していく。(ほかに、こども食堂への支援、保育士の処遇改善なども質問)

ことば ※【大規模災害団員】…一般の団員だけでは対応が困難である大規模災害に限定して出動する消防団員のこと。